



新小山市市民病院ニュースレター

Shin-oyama City Hospital News letter

Vol.45

1 病院長挨拶 ～ 新小山市市民病院のBeReal ～

当院の実情を示す最近のデータを幾つか紹介します。

図1 県内各病院の救急車搬送件数（縦軸）および時間外受診患者数（横軸）です。当院は、前者は県内3位、県南1位で、後者は夜間休日診療所がカバーしてくれています。

図2 当院に入院した各年代別患者数の近年の推移です。70歳以上の年代が急増していますが、当院は他病院と異なり、40-50歳代も増加しています。

図3 県内の病院が受けたコロナの入院協力金（橙）と空床補償（青）の金額です。当院がコロナと一般診療を両立し、病床をフル活用したことを示します。

図4 m3.com (2023.12.28)の公立・大学病院、医療法人など医療界5千人に対するアンケート結果です。当院は、栃木県の医療を最も支えた医療機関の一つに選ばれました。

新小山市市民病院は、今後も地域医療のために頑張ります。

令和6年6月

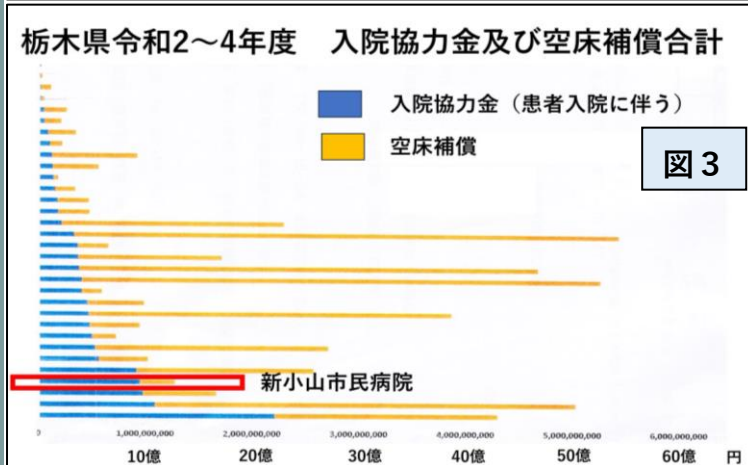
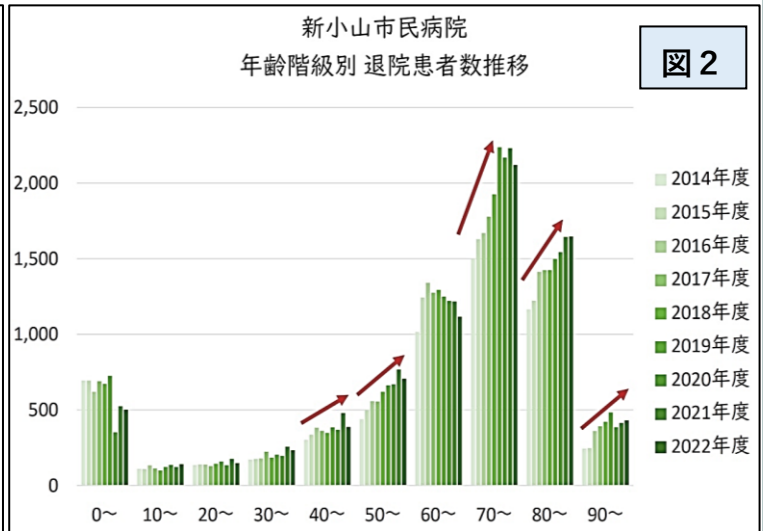
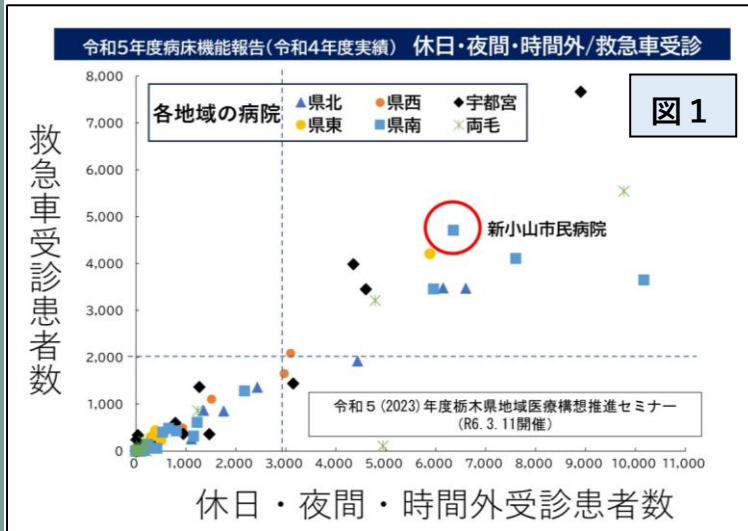
理事長・病院長 **鳥田 和幸**



目次:

- 病院長挨拶 1
- 新任医師紹介 2,3
- データから見る診療実績... 4
- 救急外来逼迫！ 5
- お知らせ 6

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室(0285-36-0252)までご連絡ください。



2023年、地域を支えた医療機関は？

公立病院、大学、医療法人など2023年の医療界5000人アンケート 2023.12.28 m3.com

栃木

- 自治医科大学附属病院
- 獨協医科大学病院
- 済生会宇都宮病院
- 新小山市市民病院**
- 足利赤十字病院
- インターパーク倉持呼吸器内科

図4

TOPICS ～ 大規模災害を想定した防災訓練・トリアージ訓練を実施しました！～

3月23日(土)に、大地震発生を想定した防災訓練を実施しました。昨年に引き続き、地域の多数の傷病者が市民病院に押し寄せることをシミュレーションし、医師や看護師などが「トリアージ」の訓練を行いました。

この訓練では、限られた時間でどれだけ正確に且つ大勢の患者に判断を下せるか、判断に応じた治療を速やかに行えるか、様々な需要に対して病院の医療資源をどう配分していくか、という非常時に求められることを平時のここのように行えるよう体得していくものです。

当院は、地域における災害医療の拠点と位置づけられ、災害時に発生した多数の傷病者に対して、その受け入れやDMATの派遣等を行う任務を担っています。以後、益々防災文化を向上させてまいりますので、ぜひご期待ください。



～ 初期臨床研修第1期生研修修了！～

令和4年度に臨床研修病院として当院で初めて採用した初期臨床研修医の三木哲治先生と矢島直人先生が、この春無事に研修を修了し、去る3月11日に研修修了書授与式を執り行いました。臨床研修管理委員会で事前の修了判定時には、外部委員として出席いただいている、自治医科大学卒業臨床研修センター センター長である山本真一先生にアドバイスをいただきながら、慎重に精査し、修了と判定しました。お二人は、それぞれ専攻医研修(後期研修)に臨むため、他の医療機関へと旅立っていきました。

当院では、現状、基幹病院としての専攻医研修プログラムはまだないため、引き続き定着することが難しい状況ですが、成長してこの地に戻って貢献していただけるよう医師を育てられるよう今後も努力してまいります。



↑最後に握手も!!

ドクターの紹介

新たに21名の医師と3名の研修医が入職しました。



放射線科 部長
朝永 博康

令和6年4月より放射線科に赴任しました、朝永 博康(ともなが ひろやす)と申します。群馬大学医学部を卒業後、2011年に群馬大学の放射線診断核医学科に入局し、放射線診断および核医学診療といった専門的治療にも従事してまいりました。CTやMRIの画像診断を通して、地域の患者様の健康、病気の治療にお役に立てれば幸いです。他診療機関様からの画像の撮影や読影依頼も随時受け付けておりますので、お気軽にご相談頂ければと思います。何卒よろしくお願い致します。



消化器内科
副部長
森川 昇玲

令和6年4月から新小山市市民病院消化器内科で勤務しております、森川 昇玲(もりかわ たかあき)です。三重県津市出身、自治医大卒業後、三重県で義務年限を終了しました。義務年限中は一般内科をメインに診療しながら消化器内視鏡検査・治療を地域で行ってまいりました。義務年限中に2年間後期研修を行いました自治医大消化器内科に義務年限明けに入局、同時に自治医大大学院に入学し、大腸内視鏡関連、特に早期大腸癌の治療(内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、Underwater EMRなど)について研究・手技研鑽を積んでまいりました。これまで経験してきた知識・技術を基に、特に消化管内視鏡検査・治療については当院へ非常勤で来ていただいている所胃腸科内科クリニックの所先生、自治医大消化器内科の高橋先生らとともに、大学にも劣らない水準での医療を実現し、小山地区ならびに周辺地域の医療に貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。



小児科 副部長
川原 勇太

令和6年4月より新小山市市民病院小児科に赴任いたしました川原 勇太(かわはら ゆうた)と申します。山梨医科大学を卒業後、2009年に自治医科大学小児科に入局し、血液・腫瘍・免疫疾患を中心に臨床と研究に励んで参りました。学校検診の血液検査異常の精査や乳児血管腫の内服治療、不明熱や自己免疫疾患などの診療で、小山地区医師会の先生方と連携させていただければ幸いです。

微力ではございますが、県南地域医療に貢献できるよう尽力して参ります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

スペースの関係上、残りの先生方は、診療科とお名前のみとさせていただきます。各科、患者さんの紹介・逆紹介や医療・連携の会等でお世話になると思います。



外科
副部長
太白 健一



小児科
副部長
齋藤 貴志



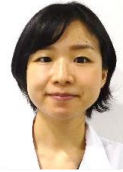
糖尿病・代謝内科
医員
加藤 夏果



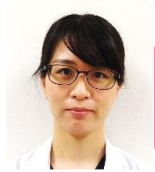
糖尿病・代謝内科
医員
堀越 裕樹



脳神経内科
医員
加倉井 綾香



脳神経内科
医員
鈴木 理沙



消化器内科
医員
小野 明日香



循環器内科
医員
蓮見 大樹



小児科
医員
上山 智樹



小児科
医員
山下 優理



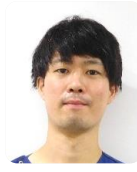
外科
医員
山田 百合子



外科
医員
高寺 樹一郎



形成外科
医員
菊地 詩帆



整形外科
医員
渡邊 康平



整形外科
医員
水沼 悠太



心臓血管外科
医員
久保 百合香



耳鼻咽喉科
医員
小野 綾乃

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

2024 年度初期臨床研修医入職！



今年度（令和6年度）新たに、初期臨床研修医3名が仲間に加わりました。

以前、採用状況として4名内定ということで、お知らせしておりましたが、残念ながら1名が医師国家試験に合格することができず、3名の採用となりました。採用になりました研修医は以下の通りです。

佐々木 喜啓（獨協医科大学卒）、高久 裕誠（旭川医科大学卒）、田浦 優希（東海大学卒）

男性2名、女性1名と今年度は女性医師も初めて採用することができました。

4月の第1週にオリエンテーションを終え、それぞれ内科系診療科で研修をスタートしております。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



初期研修医
佐々木 喜啓

令和6年4月より、新小山市市民病院に初期研修医として入職いたしました佐々木 喜啓（よしひろ）です。

出身は、米大リーグドジャースの大谷翔平選手と同じ岩手県奥州市で、ご縁があり6年前から栃木県にお世話になっております。

この2年間で自分の強みを見つけ、何刀流にもなれるよう初期研修に勤しんで参ります。小山地区医師会の皆様、未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願いいたします。



初期研修医
田浦 優希

令和6年4月より、新小山市市民病院にて初期臨床研修医として学ばせていただいております、栃木県出身の田浦 優希（たうら ゆき）と申します。

地域の皆様から信頼していただける医師を目指し、日々精進して参ります。皆様にはご迷惑をおかけしてしまうこともあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。



初期研修医
高久 裕誠

令和6年4月より、新小山市市民病院にて初期臨床研修医として学ばせていただいております。小山市出身の高久 裕誠（たかく ゆうせい）と申します。

生まれ育った小山市の医療に貢献できるよう日々精進してまいります。

至らぬ点多々あるかと存じますが、誠心誠意励みたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



データからみる当院の診療実績

～ 整形外科 編～



◆ 当院の整形外科について

骨折、スポーツ外傷、脊椎疾患、各種人工関節置換術 及び 骨軟部腫瘍の治療 及び リハビリなど一般整形外科に加え、各医師が専門を中心に、より高度な診療を行えるよう努めております。

また、その他の専門性の高い症例に対しては、他施設の医師に応援を依頼して、どの領域でも可能な限り大学同等の医療サービスを提供できるように、専門にとらわれることなく幅広い対応をしていけるよう努力しております。

整形外科で扱う疾患の全てを診療の対象としていますが、難治性又は重症疾患は、自治医大整形外科 及び 獨協医大整形外科と協力して治療にあたっています。

手術では、関節鏡手術（靭帯再建、半月板縫合/切断）や膝周辺骨切り術、人工膝関節置換術など患者様の状態/希望にあわせて行っています。半月板損傷や前十字靭帯損傷、変形性膝関節症など膝に痛みをもつ方がいらっしゃいましたら、いつでもご相談下さい。

本年度より人工膝関節置換術及び人口股関節置換術において、下記記載のロボットアームを導入しまして、より安全かつ正確な手術を行えるようになっています。

☆ 令和4年度年間手術症例内訳 ☆

術 式	症例数
脊椎外科	156
骨折の骨接合術（上肢）	95
骨折の骨接合術（下肢）	128
大腿人工骨頭置換術	47
人工関節置換術（膝）	43
人工関節置換術（股）	46
その他	117
合計	632

※手術台帳より

「栃木県初の人工関節置換術(股・膝)用の手術支援用ロボットアーム “Makoシステム”」を導入しました！」

この度、新たに「人工関節置換術(股・膝)用の手術支援用ロボットアーム “Mako システム”」を導入しました。

この装置は人工関節置換術の正確性・安定性・安全性の大幅な向上を見込むことのできる装置です。術前にCTを撮影し、患者さん毎に最適な手術計画を作成しロボティックアームに入力します。術者がロボティックアームを操作し、ロボティックアームが手術器具の操作をサポートするため、手振れを抑制し、精度が高い安定した手術が可能となります。また、操作中は手術器具が計画外の範囲へ進入しないよう、ロボティックアームが制御する安全機能を備えており、周辺組織を過度に損傷するリスクを軽減し、安全性にも優れています。

本装置は従来の手術と比較して侵襲を少なくすることが期待でき、術後の疼痛範囲の減少や術後の回復の早さも認められています。

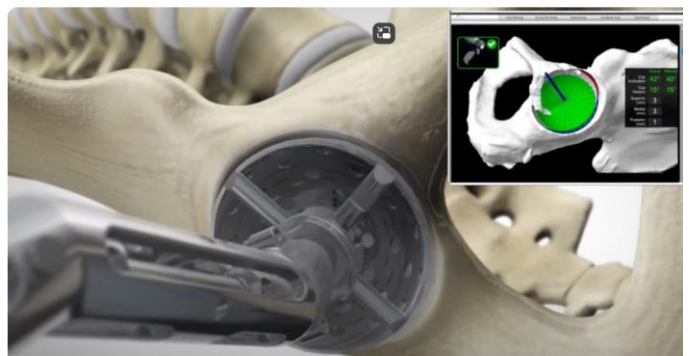
さらに2024年6月の診療報酬改定でも専用手術手技が追加になり今後が期待されているといえます。

今後とも医療技術の向上を図り、患者さんの立場に立った医療に努めてまいります。

該当する患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介いただきますようお願いいたします。

2023年当院手術実績

「人工関節置換術」 (股) : 47件
(膝) : 49件



当院の救急外来がひっ迫しています！

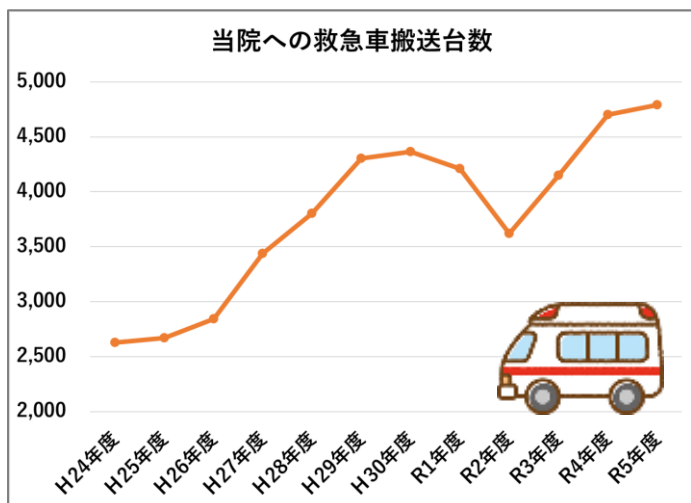
～救急車の適正利用促進のため、時間外選定療養費の運用拡大を検討中です～

島田理事長のメッセージのとおり、当院の救急車受入数は県内3位、県南地区で1位です。当院の規模(病床数300床)は県内で13番目ですから、規模的に如何に多くの救急車を受け入れているかがお分かりいただけると思います。

一方、独歩で受診可能な軽症の患者さんへの対応は、小山市の場合、医師会の皆様のご協力により、夜間休日急患診療所が機能しており、その結果、当院の時間外受診患者数は抑制されています。

当院では、救急車利用者の増加に対応するため、年々応需体制を充実させ、救急車受入台数を、この10年で倍増させました(下図)。しかしながら、当院の規模では限界を迎えつつあり、その結果、受入れ不可(救急車をお断り)も年々増加し、年間1,000件に上ります。受入れ不可の理由の大部分は、先に受け入れた患者の処置中であり、つまりキャパオーバーの状況です。医師の働き方改革の制限もある中で、これ以上、救急車利用者が増えたとしても、受入件数を増やすことは簡単ではありません。

救急車利用者が増えてしまっている背景の一つに、本来、救急搬送の必要がないと思われる軽症者の利用が上げられます。軽症者の利用を如何に抑制し、重症者を適切に受け入れられる体制を構築することが今後のポイントと考えています。



当院では2年前より、安易な救急外来利用の抑制を目的に、時間外選定療養費を制度化しました。救急外来を受診した患者に対し、当院の基準により軽症(救急を利用する程ではなかった)と判断した場合には通常の診療費に加えて、7,700円の自己負担をいただいています。なお、救急車利用者はそもそも軽症ではないとの判断から、今まで対象外としてきましたが、近年、救急車利用のハードルが下がり、不適正利用と呼べるケースも見受けられることから、救急車で搬送された場合であっても、軽症と判断した場合には時間外選定療養費を徴収することで、救急車の適正利用に結びつけたいと考えています。

当院でできることを頑張り、小山市の救急医療を安定的に維持し、より重篤な患者の命を救いたいと考えていますので、引き続きご協力をお願いいたします。

小山高専製ロボット【お・ポット】勤務開始！

ロボコン日本一の小山高専とのコラボにより開発を進めていた検体搬送ロボットが完成し、4月30日より正式に勤務を開始しました。

お小山市市民病院・お小山高専の「お」とロボットを併せ持つネーミングで【お・ポット】です。

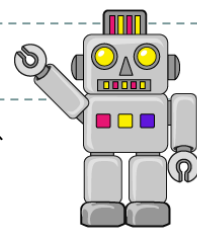
これからの未来では、ロボットは単なる機械ではなく、我々医療従事者の仲間ということで、小山高専の校長先生より勤務辞令が交付されてのスタートとなりました。勤務時間は、夜間の19時から翌7時の夜間帯で、救急外来と臨床検査室の間の約100mを完全自立走行により無人で検査用の検体搬送を担います。(今までは、搬送担当の職員が眠気と闘いながら運んでいました。)

ロボットが共存する未来社会を夢見て、当院と小山市の誇りである小山高専とで、企業の既製品に頼らず、地元小山ブランドとして一緒に頑張りましょうということで始めた取り組みの成果です。

数年後には病院内を沢山のロボットが動き回っているかも知れません。

【お・ポット】は、そのための第一歩です。もし、病院内で見かけたときは、温かく見守ってあげてください。

なお、医師会の先生方の病院やクリニックでも、お役にたてる用途があるかも知れません。ご興味のある方は、当院の総務課(0285-36-0281)までお問い合わせください。



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・脳神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関する
こと・MSWに連絡・その他、外来
患者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。



地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

Facebook

<https://www.facebook.com/shin.oya>

ma.city.hospital



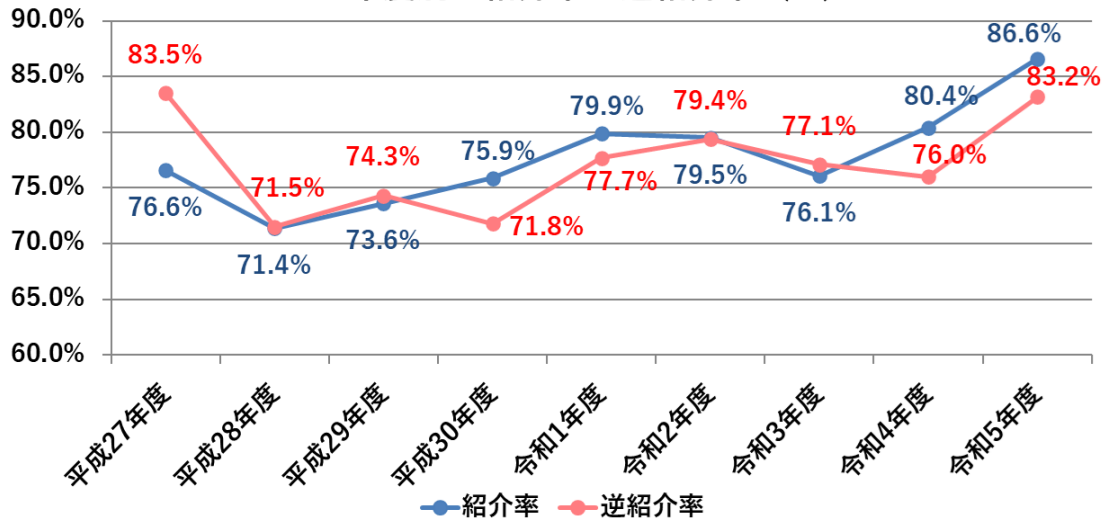
独法化10周年を
記念して記念誌を
作成しました。
ぜひご覧ください。

患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解、ご協力頂きありがとうございます。
2023年度は、昨年度比 紹介患者 1,188人増、逆紹介患者 1,314人増により、
紹介率、逆紹介率ともに過去最高となりました。引き続き、地域との連携を深め、
地域医療支援病院としての役割を果たすよう努めてまいります。

年度別 紹介率・逆紹介率 (%)



第47,48 回 地域完結型医療・連携の会WEBライブセミナー

2023年度 地域完結型医療・連携の会 WEBライブセミナーには、院外から延べ
143名(新規10名)の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

地域完結型医療・連携の会では、ご紹介された症例の報告・検討を通じて、診療
情報や当該疾患の診断治療法を紹介し、情報交換の機会となっています。今後も
皆様により満足いただけるセミナーになるよう努めてまいりますので、参加を
お待ちしております。



- ・日時 3月21日(木) 19:15~
- ・座長 大谷副院長
- ・症例報告者、症例
循環器内科 石橋医師
呼吸器内科 川口医師
眼科 佐藤医師
- ・院外参加者 25名

- ・日時 5月21日(木) 19:15~
- ・座長 東副院長
- ・症例報告者、症例
整形外科 久保医師
皮膚科 塚田医師
形成外科 菊地医師
- ・院外参加者 22名



地域完結型 医療・連携の会

奇数月、
第3木曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催しています。

次回 7/18(木)
19:15 スタート

ポットラック カンファレンス

偶数月、
第1火曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催しています。

6/4, 8/6,
10/1, 12/3, 2/4

	日 程	症例報告
第49回	令和6年 7月18日(木)	外科・心血管外科・循環器内科
第50回	令和6年 9月19日(木)	脳神経内科・糖尿病代謝内科・眼科
第51回	令和6年 11月21日(木)	脳神経外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科
第52回	令和7年 1月16日(木)	循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科
第53回	令和7年 3月13日(木) ※第2木曜日	消化器内科・外科・小児科